

3. 技術援助専門家の経験者からのヒヤリング

開発途上国における現状を把握するため、技術援助に参加した専門家へのヒヤリング調査を行った（資料-1 参照）。ラグーン処理法に関する問題点としては、以下の2点があった。

- i. タイのラグーン処理場において、腐敗槽の浄化、管渠内での浄化、地下水浸入等が原因で、流入下水の水質が計画値に比べかなり低い場合がある。バンコクの処理場において比較的多く見られる。
- ii. ラグーンによって処理された処理水中には、藻類が多量に含まれるため、流入下水と処理水のBODがほぼ同じ値になる場合がある。

上の2点の情報から、①通常考えられる高負荷の流入下水のみではなく、低負荷の流入下水を対象としたラグーンの適正な維持管理に関する検討が必要である、②ラグーン処理水の更なる高度化として、ラグーン後段に植生帯を設置し、藻類除去（遮光等の作用）に関する検討を行うことが必要であることが明らかとなった。このため、本研究では以下の2課題についての検討を行うこととした。

- 1) 低負荷流入水におけるラグーンの適正維持管理に関する検討
- 2) ラグーン後段に植生帯を設置した高度処理実験に関する検討